

2015年度 南種子町郷土館 年報



南 種 子 町 郷 土 館

鹿児島県熊毛郡南種子町中之上2420-2

TEL (0997) 26-1111

目 次

館 沿 革	1
館 日 誌	2
1. 施設の防火設備及び危難経路	4
2. 事 業	5
①展 示	5
②展示の概略	7
③企画展	8
④資料収集活動	9
⑤新収蔵資料	9
3. 教育普及活動	9
①勾玉づくり体験教室（中平小学校5年生）	9
②夏休み企画「昔の遊び道具づくり・勾玉づくり体験教室」	10
4. 入館者数	11
5. 郷土館の組織	12
6. 研究論文	13
古代から伝わる「広田の岩穴焚き（岩穴風呂）」 南種子町文化財保護審議委員（会長） 羽生源志	13

南種子町郷土館の沿革

- 昭和44年 2月28日：町立博物館設置準備委員を委嘱
- 昭和44年 3月 7日：第1回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 3月25日：資料収集協力員と準備委員との合同会
- 昭和44年 4月14日：第2回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 5月16日：第3回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 6月 7日：第4回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 9月13日：第5回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年11月 1日：旧ユースホステルの1室を使用し、「南種子町立南島民俗博物館」
として開館。
- 昭和44年11月17日：第6回町立博物館設置準備委員会（最終）
- 昭和61年 3月 5日：「南種子郷土館」として開館
- 平成19年 2月 1日：旧郷土館の老朽化に伴い、旧公立種子島病院跡に一時移転して
開館
- 平成21年 4月30日：広田遺跡展示室改修工事
- 平成24年 4月 1日：社会教育課とともに、旧南種子高等学校跡に移転して開館

館日誌

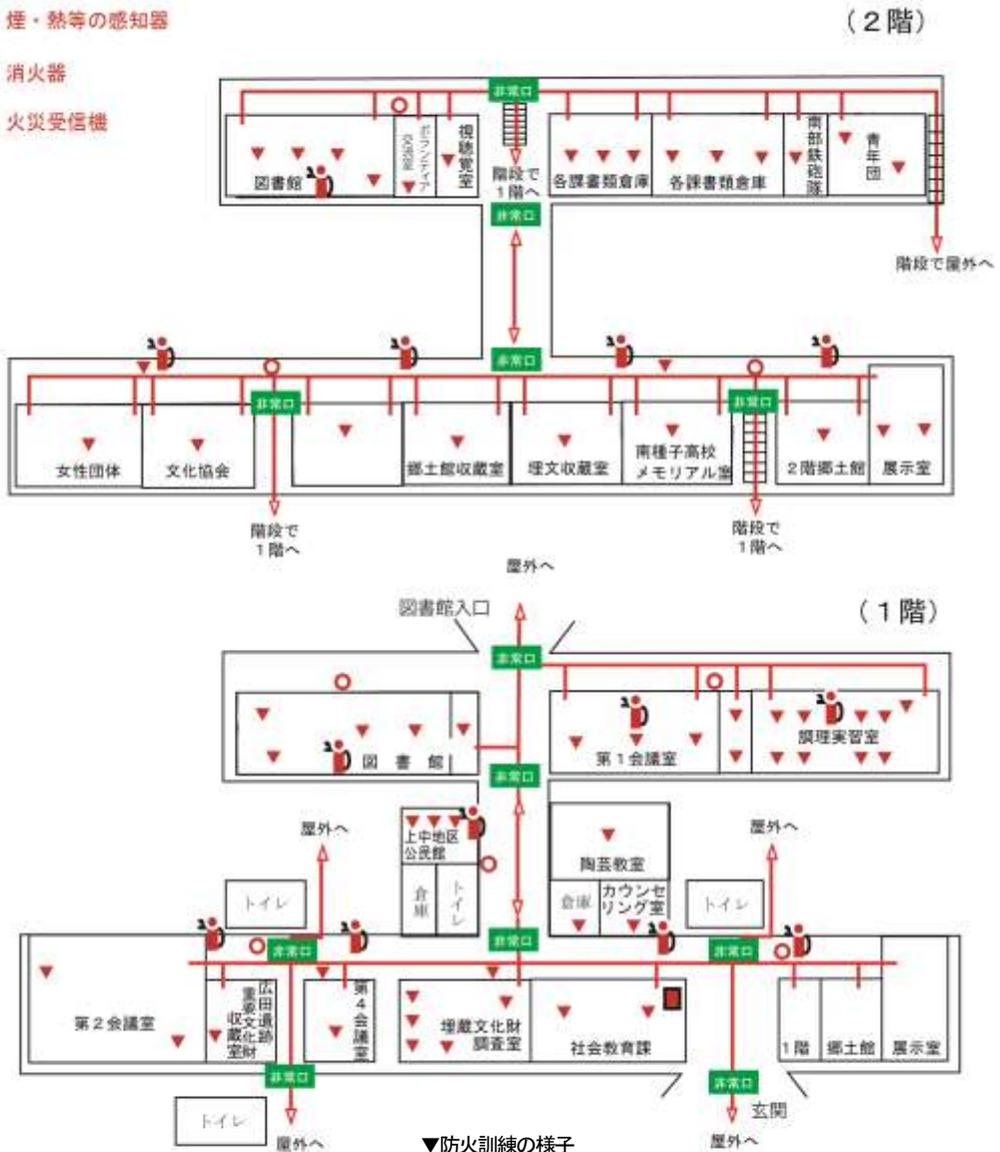
- H27.
4. 1 昨年度開催した企画展「宝満池の鴨突き網猟」のパネルの一部を赤米館に展示
 4. 15 赤米館に展示していた大木田敏明氏寄贈資料の返還（馬車鞍：1 犁：1）
 5. 2 ゴールデンウィーク イベント「昔の子供の遊び体験」を広田遺跡～6 ミュージアムで開催
 5. 8 徳永春雄氏寄託資料（旧海軍軍帽・短剣）期間の再更新
 5. 13 寄贈資料の受入（寄贈者：河野 修 氏）槍
 5. 16 広田遺跡ミュージアムで開催した「昔の子供の遊び体験」で使用した遊び道具を郷土館に展示
 5. 20 南種子町文化財保護審議委員会
 6. 4 勾玉づくり体験教室指導（中平小5年生）
 6. 12 長谷小学校来館
 6. 19 島間小学校来館
 6. 24 宇宙芸術「宇宙人かかし製作」指導 町自然の家
 6. 26 宇宙芸術「宇宙人かかし製作」指導 中平小学校
 7. 3 民謡「こうらい節」の録音
 7. 17 勾玉づくり指導（広田遺跡ミュージアムにて）
 7. 22 ヤコウガイアクセサリー・貝殻アクセサリーづくり指導（広田遺跡ミュージアムにて）
 7. 28 ヤコウガイアクセサリー・貝殻アクセサリー・勾玉づくり指導（広田遺跡ミュージアムにて）
 7. 31 貝殻アクセサリーづくり指導（広田遺跡ミュージアムにて）
 8. 5 勾玉づくり・貝殻アクセサリーづくり指導（広田遺跡ミュージアムにて）
 8. 7 ヤコウ貝アクセサリーづくり・貝殻アクセサリーづくり指導（広田遺跡ミュージアムにて）
 8. 8 寄贈資料の受入（寄贈者：岩澤ひかり）ゴマサバの骨格標本
 8. 9 小園實重氏寄託資料（発動機）期間の再更新
 8. 12 勾玉づくり・貝殻アクセサリーづくり指導（広田遺跡ミュージアムにて）

- 8. 1 4 ヤコウガイアクセサリー・貝殻アクセサリー・勾玉づくり指導
(広田遺跡ミュージアムにて)
- 9. 4 平成27年度熊毛地区文化財保護審議会委員等研修会
- 9. 1 5 郷土館企画展「塩と塩づくり」展示資料の借用
 - 西之砂坂塩焚き鍋を吊り上げる塩屋釘
 - 西海立石塩屋牧の焼き盤(馬印)
- 9. 2 0 郷土館企画展「塩と塩づくり」開催(11月20日まで)
- 9. 3 0 寄贈資料受入(寄贈者:崎田春彦氏)貝
- 10. 9 勾玉づくり指導(広田遺跡ミュージアムにて)
- 10. 1 8 島間上方豊受神社願成就祭ビデオ撮影
- 10. 2 5 西之御崎神社願成就祭ビデオ撮影
- 10. 3 1 国民文化祭オープニング開催(広田遺跡ミュージアム)
- 11. 2 国民文化祭「種子島歌い継がれた民謡と踊りの祭典」開催
(11月3日まで)
- 11. 7 国民文化祭ミニシンポジウム開催
- 11. 2 5 町立長谷小学校見学(昔の生活用具について)
郷土館企画展「塩と塩づくり」借用資料の返還
- H28. 1. 2 6 郷土館防火訓練
- 1. 2 8 郷土館及び南種子町文化財保護審議会
- 2. 1 0 郷土館企画展「砂糖と砂糖すめ」開催
- ～3. 3 1
- 2. 1 3 町立中平小学校見学(砂糖と砂糖すめ企画展)
- 2. 1 9 町立中平小学校見学(昔の生活用具について)
- 2. 2 8 インギー鶏品評会開催
- 3. 2 2 寄贈資料の受入(寄贈者:河野京子)日悦上人関係資料
- 3. 2 5 インギー鶏の認定調査

1. 施設の防火設備及び避難経路

■南種子町 郷土館 中央公民館 の防火設備及び避難経路

- 火災報知機
- ▼ 煙・熱等の感知器
- 🔥 消火器
- 📡 火災受信機



▼防火訓練の様子



▼重要文化財収蔵室

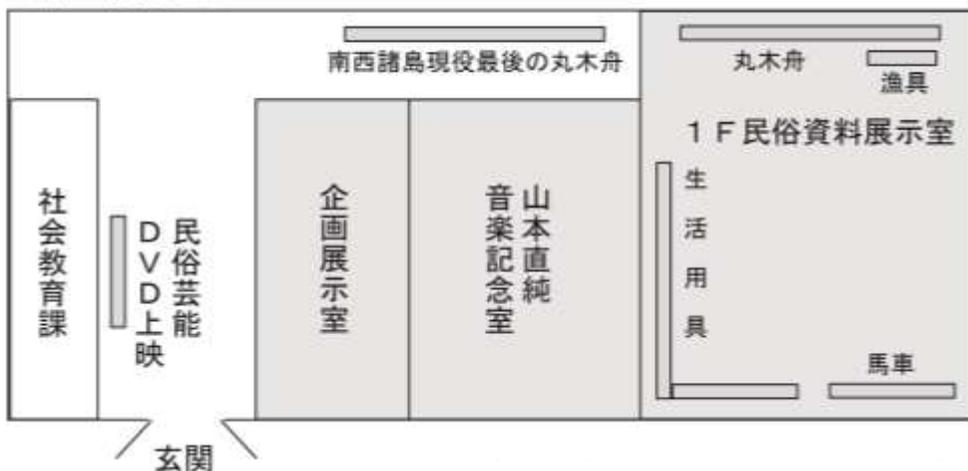


- 屋内運動場 (体育館)
- 武道館

2. 事業

① 展示

1階 展示室



1階民俗展示室（生活用具）



山本直純音楽記念室



1階廊下展示
南西諸島現役最後の丸木舟

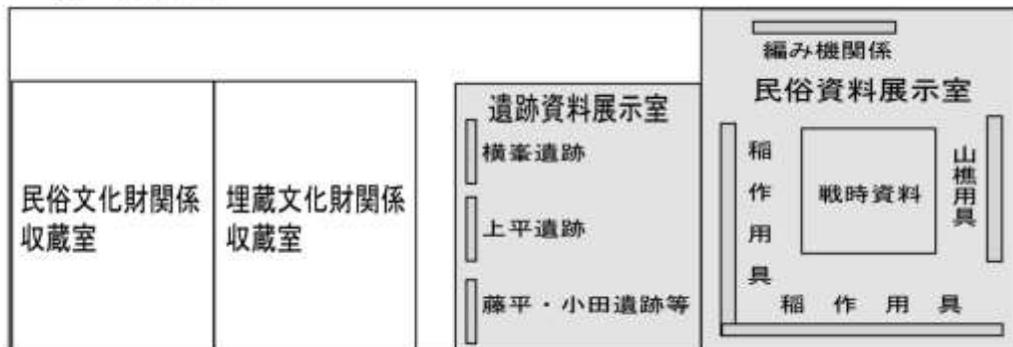


企画展示室
「砂糖と砂糖すめ展」より



1階廊下展示
過去の企画展示「インギー鶏」展より

2階 展示室



2階遺跡資料展示室



2階民俗展示室
(戦時資料)



2階民俗展示室 (稲作用具)



2階民俗展示室 (山樵用具)



2階廊下展示 (貝殻展示)

②展示の概略

■民俗展示室（1階）

住まいに関する生活用具を中心に展示。

壁面や空スペースを利用して、丸木舟や馬車などの大型資料も展示しています。丸木舟（刳舟）については、通常のもの、隣接する廊下に南西諸島において現役で最後まで使用していた丸木舟（牛野春芳氏寄贈）とを比較展示することで、それぞれの歴史や生活感の違いを感じて欲しいとのねらいがあります。

■山本直純記念室（1階）

山本直純氏愛用の楽器・オーディオ機器・レコード・盾・賞状などの寄贈品を展示。また、山本直純氏との交流のきっかけとなったイベント「トンミーフェスティバル」についてもパネルで紹介しています。今年度は、カセットテープを一部CD化しました。

■企画展示室（1階）

今年度は、「塩と塩づくり」・「砂糖と砂糖すめ（砂糖づくり）」を開催しました。写真は、「砂糖と砂糖すめ」の企画展の様子です。

■廊下展示版（1階）

1階廊下の窓枠に展示板を設置し、過去の企画展パネルを展示しました。写真は、インギー鶏が平成25年4月23日、県の文化財に指定されたことを記念して開催した「インギー鶏」の企画展の様子です。

■民俗展示室（2階）

稲作用具を中心とする農具や山で使用する山樵用具等を展示。

また、展示スペースの問題で、軍服・勲章・遺書などの戦時資料等も、同室に展示しています。

■遺跡展示室（2階）

広田遺跡以外の遺跡資料を展示。現在は横峯遺跡、上平遺跡、藤平・小田遺跡を中心に展示しています。（新たな遺跡が発掘されしだい、展示を入れ替えていく予定です。）

■廊下展示（2階）

2階の廊下にガラスケースを設置し、今年度寄贈された貝殻（崎田春彦氏寄贈）を展示しました。

③企画展

■企画展「塩と塩づくり」展（平成27年9月20日～11月20日）



西海の立石集落や西之の砂坂集落では今から800年も前から塩焚きが行われており、種子島における製塩業の始まりの地のひとつとされています。また、平山の浜田集落は、種子島で最初の塩田式による塩づくりが行われた所として知られています。

今回の企画展では、こうした町内の塩づくりやそれに関する貴重な現存資

料「立石塩屋牧の焼き盤・砂坂の塩屋釘」などに触れながら、日本の塩づくりの歴史・塩の利用や塩にまつわる話などについてもパネルで紹介しました。

町内の来館者の中にも、南種子でそんな古くから塩づくりが行われていたことをご存じない方も多くおられました。また、塩というと調味料のイメージしかなく、塩がガラス製品や革製品・塩ビパイプ・接着剤などにも使用されていることを驚かれる子供たちもいました。他にも、サラリーマンのサラリー（給料）が古代ローマの兵士の塩の給料（貨幣）を意味するラテン語の「サラリュウム」からきていることやなぜ店の門前に盛り塩をするのかなどのお話に興味を多く持たれる方も、たくさんおられました。

来館者97名（幼児：3名・小学生：16名・大学生：3名・一般：74名）

■企画展「砂糖と砂糖すめ」展（平成28年2月10日～3月31日）

種子島における砂糖づくりの歴史は、その原料となるサトウキビの栽培が1825年に許可されたことをうけて、当時の殿様「松寿院」が1827年、藩主から許可を得て行われるようになったのが始まりだそうです。企画展では、郷土学習の一環として行われていた「西之地区の砂糖すめ」についても触れながら、種子島や日本の砂糖づくりの歴史・砂糖ができるまで・砂糖に関する話などについて紹介しました。また、併せて、平成16年に撮影した西之地区の砂糖すめのビデオも大型テレビで放映しました。



来館者158名（小学生：65名・大学生：3名・一般：90名）

④資料収集活動

今後も町の広報紙での呼びかけや文化財保護審議委員からの情報提供をお願いしながら、資料の収集活動を行っていきます。しかし、現在、既存の収蔵庫が満杯状態であり、当面は、場所を取らない小物の資料を積極的に収集していきたいと思います。

⑤新収蔵資料（平成27年度）

提供者	住所	資料名（個数）
河野 修	東京	槍（1）
岩澤 ひかり	上 中	魚（ゴマサバ）の骨格標本（1）
崎田 春彦	長 谷	貝殻（一式）
河野 京子	上 中	隆師御守箱（1）・小袖の生地（1）・幡の坪及び紐（1） 極楽寺の寄進状（1）・僧形木像（1）・鬼子母神像（1） 布生地一式（1）・伝日悦上人の法衣（1）・日悦上人傳（1）

3. 教育普及活動

① 勾玉づくり体験「中平小学校（5年生）」（平成27年6月4日）

平成27年6月4日、町立中平小5年生の宿泊学習の中で、今年度も勾玉づくり体験学習の講師として、製作の指導を行いました。勾玉づくりは、自分が納得できるまで、唯ひたすらサンドペーパーで削っていく、とても根気のいる作業です。最後まで納得がいくまで削りつづける人、途中で妥協してしまう人、表面の傷が気になって磨き続ける人など様々で、出来上がった作品にその人の性格や個性が表れるようです。昨年度は、時間が足りなくて、全員、勾玉にヒモをつけるところまで行きませんでした。今年度は、全員、なんとか時間内に完成することができて、とても喜んでいただきました。

*** 35名（小学生：31名・引率：4名）**



②夏休み企画「昔の遊び道具づくり体験教室」

(平成27年7月18日～8月31日)

今年度は、勾玉づくりは広田遺跡ミュージアムで行うことになり、郷土館では割りばし鉄砲やブンブンゴマなどの昔の遊び道具づくりとその遊び体験を開催しました。小さい子供たちには怪我をしないように、カッターの使い方を教えながら製作を指導しました。割りばし鉄砲では恐竜のマトに点数を貼り、自分で作った鉄砲を使って、10回勝負で点数を競うゲームをしました。子供たちは友だちと楽しく話をしながら、また、時々けんかもしながら作っていました。次年度は、竹鉄砲づくりを追加してみる予定です。



割りばし鉄砲づくり



割りばし鉄砲あそび



ブンブンゴマづくり



ブンブンゴマあそび

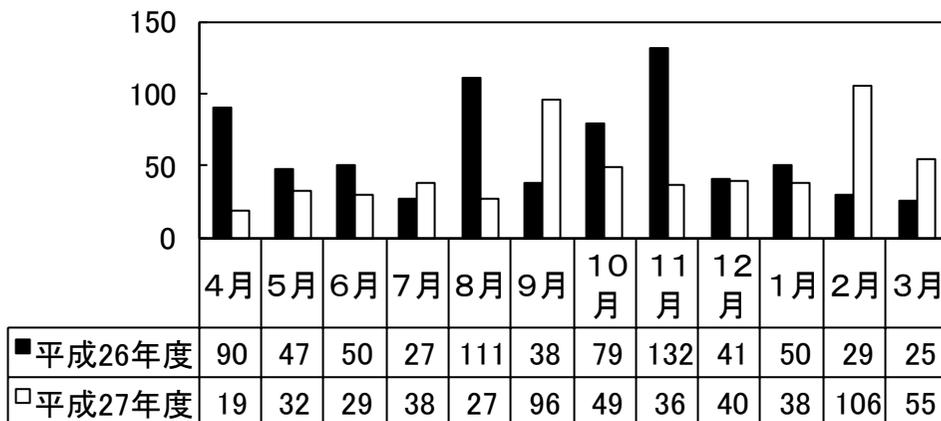
4. 入館者数

平成27年度 南種子町郷土館入館者数調査

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

分類	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	計	町内	島内	島外
4月	1	3	0	0	0	15	19	13	1	5
5月	0	7	0	0	0	25	32	20	5	7
6月	4	14	0	0	0	11	29	21	2	6
7月	3	13	0	0	0	22	38	36	1	1
8月	0	12	0	0	0	31	43	27	1	15
9月	0	24	1	0	3	68	96	48	18	30
10月	2	3	0	0	0	44	49	31	4	14
11月	2	14	0	0	0	20	36	31	1	4
12月	3	19	0	0	0	18	40	36	1	3
1月	0	9	0	0	0	29	38	30	2	6
2月	0	49	0	0	0	57	106	85	3	18
3月	0	16	0	0	3	36	55	34	0	21
計	15	183	1	0	6	376	581	412	39	130

月別 入館者数の動向(前年度比較)



5. 郷土館の組織

- 館長 高田健一郎（社会教育課長）

- 文化係 濱田伸一（庶務係長）
- 学芸員 石堂和博
- 学芸員 小脇有希乃

- 管理員 豊島 巧

- 管理員(補) 長田 忠

- 管理委員会委員長 羽生源志（文化財保護審議会委員長）

- 管理委員会副委員長 長田 忠（文化財保護審議会副委員長）

- 管理委員会委員 岩澤昭文（文化財保護審議会委員）

- 管理委員会委員 平野性賢（文化財保護審議会委員）

- 管理委員会委員 柳田和則（文化財保護審議会委員）

6. 研究論文

古代から伝わる「広田の岩穴焚き（岩穴風呂）」

南種子町文化財保護審議委員（会長） 羽生 源志

昔の人は、体を洗ったり（保養・医療）浄めたりしたのは、
いつ・どんなとき・どこで・どのようにしたのだろうか？

採集・狩猟時代は、何日も体を洗わないことが多かったことでしょう。

火を使用するようになってから、自然の洞窟の中で火を起こすと熱気で体が温まり汗をかき体の調子が非常によくする事を知り（保養・医療効果）、更に工夫されて、土壁や石を熱してそれに水を掛けて蒸気を起こしてその蒸気に体を浸して浄める蒸気浴が行われるようになった。

風呂とは、蒸気浴のことで、古代・中世・江戸時代中期頃までは蒸気風呂だった。

○風呂の語源は・・・

蒸気を密閉した部屋に籠らせて体を蒸すやり方で、壁に囲まれた部屋をムロ（室）と言った。このムロ（室）が転化して風呂と呼ぶようになったという。

茶の湯の席上で釜に掛けて湯を沸かす炉⇒風炉から転化したともいわれている。

○入浴の習慣・・・

古くから保養・医療を目的としたり、宗教的儀礼の一部として利用され、年中行事や祭礼と深く関係し、心身を浄めて（禊ぎ）神祭りに奉仕したのが始まりといわれている。

○古代～中世にかけて・・・

大寺院に温室院・温室・湯屋等と名の付く沐浴施設（湯や水を浴びて体を洗い浄める施設）があった。

これは、寺院の僧侶の入浴のためだけでなく、病人や囚人などに対する施し湯で、病院としての役割も持っていたようである。

仏教の慈善事業としての施し湯で、光明皇后が始められたともいわれている。

天武天皇の壬申の乱（672年）の際、傷病人を施し湯で治したという伝説もあるようだ。

○風呂とは・・・

浴槽及び湯そのものと洗い場も含めた部屋・建物を風呂と呼び、蒸気浴（風呂）をさした。

奈良時代以前は、浴槽に別の釜で沸かした湯を汲んで入れる取湯式で、その取湯で禊ぎをして大嘗祭にのぞんだという記録もあるようだ。

○料金を取って・・・

人々に入浴させる風呂は、室町時代以前から京都・奈良の都では入浴だけでなく、酒・茶・料理等をたしなむ遊びにも使われていたようである。

穴蔵のような籠を作って、中で青松葉や青木を焚き、灰を掻き出して塩俵や塩水を掛けて湿らせた荒筵を敷いて、その上に横たわって蒸気に浴したという。

禅宗寺院では、浴室と東司（便所）の二つが最も重視されていたという。

風呂と名の付くものを挙げてみると、

据え風呂・一風呂・朝風呂・石風呂・岩風呂・浮世風呂・内風呂・ガス風呂・家族風呂・釜風呂・空風呂・雁風呂・五右衛門風呂・菘被り風呂・塩風呂・砂風呂・外風呂・長州風呂・鉄砲風呂・トルコ風呂・塗風呂・野天風呂・水風呂・蒸し風呂・湯女風呂・露天風呂・もらい風呂・よび風呂・もやい風呂・・・等

○平山広田の岩穴風呂

場所は、広田海岸 奥ん園 岩穴の上に恵比寿様有り

人工的に掘り込んだ岩穴の中に火を焚いて土壁を熱し、燃え残りの薪を取り除き、煙の出ない火種（オキ）を残し、その周りに月桃の葉かバナナの葉を敷いて、それに座って汗を出す方法で、今で言うサウナの一種である。

準備（材料集め）

1. 藁

戸を作るための物

山田満幸氏（貞道氏の三男）がミカンの木の下に敷くために、ミカン畑（山枯のオウチョウジ）に寄せていたのをお願いしたところ「よこーや、どこでも取っちょよこーや（いくらでも取って行っていいよの意味）」と気持ちよく相談に乗ってくれたので、遠慮なく大束で20束ぐらい貰う。

2. 焚き木取り

阿武鋤川ほとりのゴミ捨て場から採集。これといった良木はなかったが何とか揃える。

3. 粘土採取

柳田和則氏にお願いしていたところ、河内（集落名）にあるから何とかしようということで行ってみたところ、河内のポンカン畑の下の方を採りやすいようにホイルで掘り起こしてくれていた。

原南海生氏と二人でスコップで肥料袋に入れるだけ、その入れた肥料袋をヒットコサーと言って柳田氏が軽トラックに載せてくれた。

肥料袋15俵位

4. 岩穴の戸作り

岩穴入り口の大きさに長四角の枠作り

その枠に、藁を編んでいく。

向井良隆氏がドン（私たち）が二人だけで作るといけんから、みんなが参加する体制を作った方がいいと言って残した。

5. 岩穴入り口に粘土張り

熱気が漏れないように、そして戸がきちんと閉まるように入り口の周りに粘土を塗りつける。

戸作りとともに完成。

岩穴の試し焚き

岩穴の焚き具合はどうか・熱気は抜けないかどうか・岩穴は崩れないかどうか等

安全確認⇒大丈夫と確認

南種子町地名研究会が視察研修

6. 岩穴焚き（岩風呂）

11時40分 点火

岩穴全体を焦がすぐらいに火を燃やして煙の出る焚き木を取り除く。中は大変熱いので、取り除くのが大変なので向井良隆氏が3メートルぐらいの生竹で罅を作って取り出し、残り火（火種＝オキ）にする。1時間30分ぐらいかかった。

シャニンノ葉（月桃）やバナナの葉を敷いた。

13時10分 入浴

広田の小学生男子6名・女子6名、男女交互に5～10分位、2回にわたって入る。顔は真っ赤になって出て来た。向井良隆氏が一緒に入ってくれた。

最初は恥ずかしくて遠慮していたが、だんだん慣れてくると気持ちよかったと言って、また入ると言った。

南日本新聞社の記者やふるさと種子島（中原氏？）・他の大人たちも入浴。

入浴後、子供たちはジュースとおやつを飲食しながら、記者やカメラマンに応じてくれた。

その後、岩穴焚き（岩風呂）について話をした。

その後も入りたいと要望があつたが、時間の都合で終了した。

14時30分 終了

7. 岩穴焚き（岩風呂）の効用

汗を出すことによって、体中に溜まっている老廃物を排出し、血液の循環もよくなる。

リュウマチ・神経痛・腫れ物等に効果あり。

月桃⇒ショウガ科の多年草。

種子島から南の奄美大島・沖縄・台湾等に自生、観賞用として栽培。

生葉は、包装用として⇒握り飯・煮しめ

茎は、乾燥してマット・漁網に

種は、民間の薬として、健胃剤・芳香剤・腫れ物等に

バナナ⇒民間の薬として、腫れ物・芳香剤

月桃・バナナは、岩穴の熱気と冷たさ・芳香がマッチ

*百姓ども 御馳走に 石風呂焚き (川柳)

農繁期の後の農閑期に隣近所誘い合い、飲み物や腰弁当等を持って集まり、蒸し浴後、輪になって持ち寄ったものを交換したりして食べ合い、四方山話にふけったり、歌や踊り等で賑わい、和を保ち、明日への労働の糧とした。

このようなことから地域の連帯が深まり、伝統行事・民謡・六法等、芸能文化が生まれ、広田の岩穴焚き等を通じて民謡・民芸の宝庫となり、草切節の発祥の地でもある。

*風呂敷⇒昔は銭湯に入るときは、下帯 (風呂フンドシ) や腰巻をつけて入った。そして混浴であったが、風紀が乱れるということで、寛政の改革の時禁止され、男女別々の風呂となった。

風呂で濡れた物 (下帯・腰巻) 等を包んだり、あるいは床に布を敷いて身仕舞いをするための布を、風呂敷と呼ぶようになった。

20年ぶり 岩穴焚き



南種子町平山の広田集落で10日、「岩穴焚き」が20年ぶりに再現された。海沿いの洞窟を利用したサウナ風呂で、平山小学校児童らが昔ながらの風習を体験し、心地よい汗を流した。

南種子・広田集落

広田遺跡ミュージアム 活性化につなげようと語り部の会が、地域

閉期に疲れを癒やし、神経痛やリウマチに効いたとされる民間療法。かつては町内各地にあり、住民交流の場でもあったが、戦後に廃れた。

ドーム状の岩穴は広さ2畳ほど。木を1時間半近く燃やして岩壁を温めた後、おき火だけに、香りの良いゲットウの葉を敷き詰めて準備を終える

岩穴のなかでサウナ気分を楽しむ子供たち

—南種子町平山

小学生、昔風サウナに汗

と、子供らは交代で服を着たまま中へ入った。最初は「熱い」と嫌がっていたものの、5分後にはうっすら汗をにじませて出てくると、「もう一回入りたい」。5年の向井美咲さんは「じんわりと温かった」と気持ちよさげだった。

語り部の会顧問の羽生源志さん(80)は「喜んでもらえてよかった。また時機をみてやりたい。先人の残した宝を後世に引き継いでもらえたら」と期待した。

町教委によると、広田の岩穴は1972(昭和47)年に町文化財に指定。岩穴焚きは昭和39年に復活し、96年に十数年ぶりに行われた記録が残るとい

(山本輝志)



写真1 岩穴焚きの準備 ワラを切る



写真2 粘土とワラをまぜる。



写真3 粘土をはりつける。



写真4 粘土をはりつける。



写真5 完成



写真6 焚く



写真7 たき火であたためる



写真8 確認する



写真9 マキを出す



写真10 ゲットウを敷く



写真1 1 岩穴に入る



写真1 1 価値を伝える。